

東奥日報

2020年(令和2年)6月3日水曜日(12)

市内61カ所PR

景観賞の建物ミニ化

八工大3Dプリンターで制作

八戸

八戸市の八戸工業大学創生デザイン学科の宮腰直幸教授と学生らが、八戸をPRするきつかけになればと同市の景観賞に選ばれている建物のミニチュアを制作した。3Dプリンターで作ったミニチュアは手のひらに収まる小ささ。展示した際、かわいらしいと人気が出たことから、宮腰教授らは今後の活用を検討している。

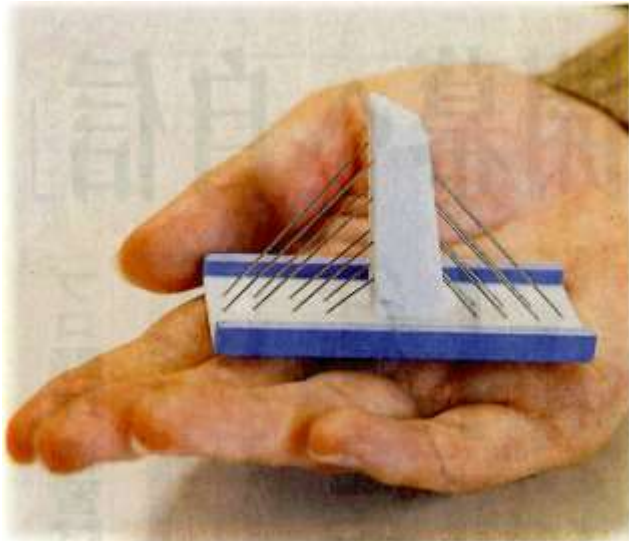
(山谷佳澄)

景観賞のミニチュア制作を行ったのは、主に2019年度に卒業した学生ら。

2019年度の卒業生で制作に携わった種市美友希さんは「頑張ってデータを

作り上げたものの、いざプリンターから出力したら折れてしまったりなど、苦労は多かった。たくさんの人に見てもらう機会をつくり、八戸を知るきっかけにしてみられれば」と語った。宮腰教授は今年も学生らとミニチュア制作をする予定で、市内の神社をテーマにする予定だという。

八戸市景観賞は、優れた景観や保全の取り組みを表彰し、魅力ある街づくりを進めることを目的に1987年度から実施。これまでに約85件を表彰している。



「八戸シーガルブリッジ」



「ファッションバル・ウイアノウア」



「八戸屋台村みろく横丁」



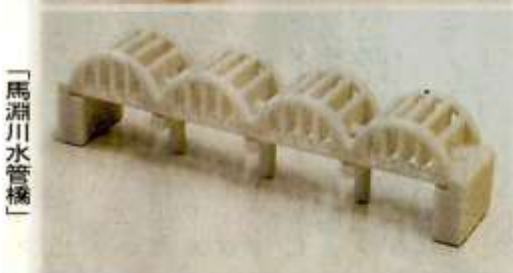
「八戸セメント株式会社NSPタワー」



「ケーキハウスアルパジョン」



「対泉院」



「馬淵川水管橋」



「カネイリ(番町店)」



「東奥日報社八戸ビル」

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」